

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム『シャイニング』フラワー	評価実施年月日	2007年11月1日
評価実施構成員氏名	石前、鈴木(詠)、鈴木(法)、村井、宮崎、安井		
記録者氏名	鈴木法子	記録年月日	2007年11月7日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中で生活していた利用者ばかりではないので、特に地域生活の継続を支援する。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝のミーティングでは全員で理念を唱和している。また職員会議の中でも、常に利用者にとってホームが家庭的であると思ってもらえるよう話し合い実践している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族には、訪問時や家族会議等、折に触れ伝えている。また、見学に訪れた方には分かりやすく説明したり、地域での敬老会・町内会の会合時にはシャイニング新聞を配り、事業所の実践を伝えるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買い物・散歩で外出することはあるが、隣近所の人と声を掛け合う機会は少ない。近隣に住む方が見学に訪れることもあるが、日常的な付き合いができるまでにはなっていない。	○ 季節によっては外に出ることが難しいが、可能な限り、近くの店に買い物に行ったり町内会の人にも気軽に立ち寄っていただけるよう声かけをしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	管理者が町内会の役員を引き受けており、町内会の人たちが立ち寄ることが多い。また町内婦人部にボランティアで催しに参加をお願いすることも多く、地域との付き合いはあるが事務所側から地域活動に参加する機会は少ない。	○ 歩行困難な利用者が多く、地域のお祭り行事への参加が難しいこともあるが、ボランティアとして来てくれる町内の方との交流を今後も続けていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の研修にはできる限り参加するようにしている。町内の会合の折には、地域の方に認知症についての啓発に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全職員で取り組み、職員の意識向上、ケアの質の確保に活かしている。外部評価の結果は、職員会議で報告し改善に向けての具体策を検討している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、事務所の取り組み・実践報告を行っているが、メンバーからは地域の高齢者の相談が多く事務所に対しての意見まではもらえていない。	○	次回の会議では外部評価の報告を基に意見をもらえるような会議にしたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ケア研修会の研修の場に市の担当を招いた折に、事務所の実情を知ってもらい課題解決に向けて協議している。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	利用者の中には現在、成年後見制度を利用している人がいる。利用までには、管理者・ケアマネがその必要性を十分話し合ったうえで制度を活用できるよう支援した。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加する他、虐待に関する新聞報道があった時には、職員会議・申し送り時に職員に虐待防止法の理解・遵守を徹底している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項説明は丁寧に行っている。利用者の家族が不安を感じていることを引き出し、料金・重度化したときの対応・医療連携体制については詳しく説明し同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者から自由に職員に対して意見や苦情が寄せられている。苦情に対してはケアマネ・管理者で相談に乗り、運営に活かしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、近況報告で日ごろの暮らしぶりや、健康状態を報告。出納帳のコピー・領収書は月1回まとめて送っている。心身の状態について問題が起きた時には、きめ細かく報告を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会は設けているが家族同士が話し合う機会はまだない。個別の苦情に対しては、その都度対処しているが、外部者に安心して意見を表せる機会を積極的に作っているとはいえない。	○	年末の行事(餅つき)にはご家族にも参加してもらい、家族同士が話し合ってもらえる時間を作りたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケアマネが現場の職員の意見・要望を聞き、管理者に伝えるようにしている。リーダー会議・職員会議で話し合う機会もあるが、職員の意見が十分に聞き入れられないこともある。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者のADLの低下に伴い、介護負担が重くなり、腰痛などの体調不良をおこす職員がいたり、急な休みが続いた時には応援してくれる人が確保できず、柔軟な体制が取れる職員配置をなっていない。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットでADLの状態に偏りがあり、ユニット間で2ヶ月毎の移動体制を取っている。その間も、利用者には常に顔を出したり声をかけることにより、不安や不満を感じさせないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎月1回のバリテーションの勉強会には継続して参加している。ケア研究会の研修・事業所外で開催される研修会には多くの職員が受講できるようにしている。研修報告は毎月の職員会議で発表している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム ケア研修会では、定期的に研修会を開催し、同業者と交流する機会がある。地域包括センター主催のケアマネ交流会にも参加し、地域のほかのグループホームとの交流を深めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員間で年齢差があり、職員同士がストレスや悩みを打ち明けられるように取り組んでいる。</p>	<p><input type="radio"/> 前年からの課題でもある。休憩時間をどう確保するか、本当に休める場所はどこか、もう一度全職員で検討したい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の努力や、実績が正当に評価される仕組みを検討している。</p>	<p><input type="radio"/> 向上心を持って働いている職員に対してその努力を認め、さらに働き続けていきたいと思えるよう検討している。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談があった時には必ず本人に面談し、本人の意思の確認ができない場合でも、出来るだけ本人の思いに向き合い、状況を把握するようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人と家族との関係や、家族が抱えている不安をそのまま受け止め、事業所との信頼関係が築けるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人やご家族の思い・状況等を確認し、地域包括支援センターや他のサービス利用につなげる対応をしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービス利用に当たっては見学してもらうことから始め、本人・家族が納得した上で利用してもらうようにしている。 本人が見学にこられない場合は、ご家族や関係者に来てもらうなどして安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員の介護に対して利用者から「大変だね」とねぎらってもらう事もある。 昔話の中から生活の知恵を借りたり、一緒に過ごす中で助けてもらう場面も多く、支えあう関係が築けている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には日々の生活の中で気づいたこと・変化などきめ細かく伝え、本人にとってどうすることがいいのか話し合い、協力して支えていくことを伝えている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の思い・家族の思い、両者の思いが結びつくような働きかけを心がけている。 疎遠となっている家族には近況報告・電話で本人の思いを伝えるようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いきつけの喫茶店や美容院への訪問を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の中には、自分より弱い立場の人をかばったり面倒を見てくれる人もいるが、職員が手薄となる時間帯には不穏な利用者のそばで寄り添ってくれることもある。利用者同士の良好な関係が保てるよう目配りしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了した後、ご家族が近くに来たからと立ち寄ってくれたり、新たに知り合いの方を紹介してくれたりすることもあった		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	実現不能な思いでも真意を組み取り家族に思いを伝え、どうすることが本人にとって最良なのか話し合うようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人との会話や、ご家族の訪問時に聴き取り把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを把握し、体調の変化を見逃さないようにしている。今まで出来ていたことが出来なくなってきた利用者にも引き出せる能力はないか感じ取り、その人全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアマネと職員で定期的にカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を作成するようにしている。 本人・家族も交えた話し合いとはなっていない。	○	カンファレンスには家族にも参加を呼びかけ、家族の意見も取り入れたケアプランを作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態が落ち着いている場合に、六ヶ月ごとにモニタリングし、新たなケアプランを作成している。 利用者の状態に変化があった時には、その都度カンファレンスを開き、対応について話し合いを行っている。	○	新たな要望や変化が見られない場合でも月に1回はカンファレンスを開き、実情に即した介護計画の見直しを行いたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月の介護記録と介護支援経過に個別に記録し、実践・結果の経過が分かるようにし、モニタリング・ケアプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かして、重度化した場合も出来るだけホームでの生活が続けられるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進委員会では、民生委員にもメンバーとして参加してもらい、地域で暮らし続けられるよう意見交換している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、他のサービス利用を必要としている利用者はいないが、他のグループホームや居宅のケアマネとは研修の機会に情報交換しており、必要性が生じたときには対応できる。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは研修会やケアマネ交流会で情報交換しており、必要に応じて協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医と医療連携体制をとっている看護師とは、受診時や訪問時に健康管理について相談にのってもらうなど、医療機関と関係を密に結んでいる。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医には日ごろの様子・変化などを詳しく伝え専門の受診が必要か相談し、必要がある場合には紹介状を書いてもらい、家族も一緒に受診し説明を受けるようにしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制をとっている看護師が定期的に訪問している。訪問時には日常の健康状態・変化を伝え、医療上の相談に乗ってもらっている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院となった時には、必要な検査・治療が終えた段階で家族も交話し合い、出来るだけ早く退院できるよう医療機関と協働している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に、重度化した場合における対応の指針を定め、事業所の対応を説明している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向を踏まえ、利用者が安心して終末期を過ごせるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人の強い希望で自宅に移り住むことになった利用者の場合、十分な話し合いを持たず一方的な退去となったため、その後の情報交換も行っていない。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄・着替・オムツ交換等は他の人の目に触れぬよう行っている。難聴の利用者に対して大声での言葉かけが他の利用者に聞こえてしまうことがある。個人記録の記入に関して、本人の誇りを傷つける表現になっていないか話し合っている。</p>	○	<p>止むを得ずトイレで着替えをする場合には、必ずカーテンを閉めるようにする。 難聴の利用者に対しては、耳元で低くゆっくり言葉がけすることにより、他の人に聞こえないよう注意していく。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ゆっくり・はっきり視線を合わせて話し、本人が何を希望しているか・どうしたいか聞きだしている。 余裕がない時には職員が本人の思いを勝手に決め付けたり、時間をかけた働きかけが出来ないこともある。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1日の日課に沿って、ある程度決まったペースで生活している。 夕食の時間が終わると居室に戻り午後7時前に入眠する人が多いが、それもその人の希望する暮らしであり思いのままに任せている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人や家族の好み・意向を重視して支援している。 お洒落な利用者には通院・行事の時には職員と本人と一緒に化粧したり、よそぎの服を選ぶなどしている。 月1回の訪問理美容院の際、希望に合わせてサービスを受けている。</p>	○	<p>身だしなみに気が回らない利用者には、さりげない言葉かけで他の人に不快感を感じさせないように努めていきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎月の給食会議で検食簿を見ながら職員が意見を交わし、入居者の嗜好に合わせている。 野菜の下処理や茶碗拭きなど、出来ることは声かけし一緒にするようにしている。</p>	○	<p>利用者が好きなお寿司を月1回メニューに取り入れているが、今後も続けていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は、お茶の他コーヒーの好きな方にはその時々声かけし、コーヒーを勧めている。こだわりのある人には喫茶店でコーヒーを楽しんでもらったりしている。おやつはいつも好み通りとはいかないが、外出したときに本人の食べたいものを買うようにしている。	○	外出の機会を増やし、本人の望む飲み物やおやつなどの希望を叶えていきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンはチェックシートで把握、時間でトイレ誘導し、オムツの使用を出来るだけ減らしていくようにしている。尿意が分からない利用者にもトイレで排泄出来るよう、時間や行動を観察し、失敗を少なくするようにしている。	○	時間やその人の行動を観察し、トイレ誘導。排泄の失敗を減らしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一番風呂にこだわる利用者には、その人の希望に合わせ、気持ちよく入浴してもらうようにしている。身体状況によって湯船に入れない利用者にもシャワー浴で十分満足間を持ってもらえるよう支援している。	○	入浴の際のシャワーキャリーを新しくしたことで、今までより安全に安心して入浴を楽しめるようになった。利用者が言葉に出さない不自由さにも、職員が気づいていくようにしたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間、寝付けない入居者には添い寝をしたり、そばで眠りに入るまで話しかけたりしている。利用者の中には不眠が続く人もいるが、無理に寝せようとせず、眠くなるまで付き合うなどの支援をしている。	○	昼夜逆転や夜間不眠が続く利用者は、継続して医師と連携をとりながら、対応の仕方を相談していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の生活の中で、手伝える場面には必ず声かけをしている。利用者からも「何か手伝うことないかい?」と言ってくれる事もある。普段の会話から得意なことを引き出しても、それを活かす機会を作るよう心がけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理能力のある方には、自分の財布からお金を出し入れしてもらっている。金銭管理が困難な方にも、通帳を見てもらい必要なもの・希望するものがあるときには十分、説明・納得していただいた上で買うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には散歩に行ったり、季節を感じてもらえるよう花見・紅葉見物に出かけている。 車椅子の利用者が多く、外出を億劫がる人も多いが、一人ひとりの希望に沿って喫茶店や外食(回転寿司)など、少人数でゆっくり出かけられるようにしている。	<input type="radio"/>	外食は人気なので続けていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人が行きたいと思うところへの外出については、職員で何とか希望を叶えてあげたいと検討したが、職員の調整がつかず実現できていない。	<input type="radio"/>	職員だけでは実現が無理な場合には、家族の協力を得て、実現に向けて取り組みたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族からの電話や手紙は取り次ぐが、こちらからの電話や手紙の声かけは不十分である。	<input type="radio"/>	手紙が届いた時には、その時に手紙(代筆)や電話で相手に嬉しい気持ちを伝えることが出来るよう、支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族への近況報告などで、ホームの様子をお知らせし、行事への参加をお願いしたい。訪問客への挨拶の徹底(元気良く・明るく)。	<input type="radio"/>	近況報告 シャイニング新聞で全体の雰囲気をつかってもらえるようにする。ご家族が訪問したときには、積極的にお話する。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が「どんな場合にも身体拘束はしない」という姿勢で、身体拘束0(ゼロ)のケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関前は見通しが良く、遠くへ行く気配が感じられるときには、早めに声かけし、一緒についていくなど安全面に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録する机を見守りやすい位置にし、いつでも利用者の様子を察知できるようにしている。居室で過ごす利用者にも時間毎に声かけし、様子を確認している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁は利用者が手の届かない場所に保管している。薬は保管場所を利用者の目に入らない位置に移動させたり、一人ひとりの状態の変化に応じて、危険要因はないか話し合っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットに関する報告・記録を基に申し送り会議の中で、再発防止について検討している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	夜勤時の緊急時対応についてはマニュアルを整備し周知徹底を図っている。	○	少なくとも年1回の救急救命法等の学習会を実施していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し年2回、利用者とともに避難訓練を行っている。	○	今後の運営推進会議で、災害時の協力を呼びかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	多少リスクはあっても様々な役割活動の中で、持てる力を発揮することが本人にとっては喜びであることを家族にも理解していただけるよう説明していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック・排便の有無を確認し、便秘による不快感や不穏な行動を見逃さないようにしている。 体調や表情の変化を見逃さないようにし、職員間で情報を共有し対応が遅れないようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のセットはダブルチェックで誤りがないようにしている。 服用するときは飲み込むまで見守り、きちんと服用できているか確認している。 薬の処方の変更になった時には受診記録に記載し、医療機関との連携も図れるようにしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分補給が不十分な利用者には、出来るだけ水分摂取してもらうよう声かけしている。 運動不足が考えられる人には、毎日の日課としてホール内を歩行することを働きかけている。	○	自然排便できるよう、身体を動かすような働きかけを続けていきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの重要性は、全職員が理解している。自分で出来る人への声かけはしていないため、口腔内の清潔保持が出来ていないと思われる人もいる。	○	自分でしている人も必要に応じて積極的に声かけしていきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	運動不足によるものか、体重増加が著しい利用者がある。栄養バランスを考えた上で、摂取カロリーを抑えるため全体量を減らす工夫をしている。 水分制限のある利用者は、水分管理を徹底している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は利用者・職員ともに受けている。 ノロウイルスの流行する季節には、研修を受けた職員から会議で予防・早期発見・早期対応に関して報告してもらい、全職員に周知徹底している。	○	感染症予防に対するマニュアルが整備されていない。早急に作成したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の予防のため、まな板・ふきん等は毎日漂白する。 調理を担当する職員以外は、出来るだけ厨房に出入りしないようにしている。 計画的な買出しを行い、無駄なく安全な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前はベンチやプランターを置いて季節の花を楽しんだり、子育て支援の親子が遊べるスペースもあり、利用者とも触れ合うようにしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天窓から強い日差しが差し込む時期には、こまめにテーブルの位置を移動させ、気持ちよく過ごせるように配慮している。 季節の花を飾ったり、近くで採ってきたフキを料理したり草餅を作るなど、季節感を取り入れるようにしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TVの見やすい位置にソファを置いてはいるが、限られたスペースで全ての利用者が思い思いに過ごせるような居場所を作ることは難しい。 一人になりたい人や、気の合う人同士は居室でほかの人のことを気にせず過ごしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者には出来るだけ自宅で使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。 生活スタイルに合わせ、布団で寝起きする人もいるが、床暖の熱が直接伝わらないよう、断熱ボードを敷いて快適な睡眠が得られるよう工夫している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	台所やトイレはまめに換気して、臭いがこもらないようにしている。 居室の温度調整も一人ひとりの状態に気を配っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>身体機能の低下に伴い、浴室の手すりの高さを調整したり、シャワーキャリーを新しく購入し入浴の際の安全確保と自立への配慮をしている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>今まで分かっていたことが分からなくなって混乱している人には特に「まだ分かることはないか」その都度職員で話し合い、本人の残存能力を引き出すよう支援している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>春の花苗植えや秋にチューリップの球根を植えるときには、利用者も一緒に作業したり、畑での野菜作り・水やりは利用者が中心になって行っている。 玄関先にはベンチを置いて、日向ぼっこが出来るように工夫している。</p>	

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

平均年齢が85歳と高齢の利用者が多く、身体状況も徐々に低下していく中、重度化した時にも希望に沿ってできるだけ最期までホームの暮らしを続けていけるよう支援している。一年前から利用者の顔ぶれ変わらず、理念でもある、ひとつの家族のようにお互いに支えあう関係が築けている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム『シャイニング』～フルーツ	評価実施年月日	2007年11月2日
評価実施構成員氏名	保毛・佐々木・阿部・中原・山本・今村		
記録者氏名	今村 なお美	記録年月日	2007年11月7日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	家庭的な雰囲気であること、今までと同じように生活できること、施設がひとつの家族になれるよう努力することなど独自の理念を掲げている。		慣れない土地でこれからも安心して暮らしていけるよう、家庭的な雰囲気作りに取り組んでいく。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者、職員で行う毎朝の申し送り時に理念を唱和し、意識づけをしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族へは、訪問時や毎月一度発行の「新聞」を活用している。地域住民に対しては、イベントに参加して下さったとき、町内の会合のときなど、機会あるごとにわかり易く説明している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩などに出かけたとき、近所ですれ違う人には積極的に挨拶をするよう心がけているが、気軽に立ち寄ってもらえるような場所にはなっていない。しかし、小学生が学校帰りに寄って宿題をして帰ることはある。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の敬老会に該当する入居者さんは、できるだけ参加するようにしている。地域のお祭りを見学するなど、昔からの行事を楽しんでいる。管理者が町内の役員を引き受けている関係上、近所の人々が用を足しに来ることは多い。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	実習生を積極的に受け入れ、実際のケアを体験してもらおうなど若い人材育成に貢献している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の評価の結果を踏まえ、ソファの位置を変えるなどして一人のときでも落ち着ける場所を作った。廊下から見える景色は大切にしたいが、非常口であり、居室の出入り口であるため、腰をおろして座れる場所にはなっていないが、施設内運動の際には『目標カ所』として役立っている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>施設内での実際を運営推進委員会で話しはするが、そこでの意見を活かせるように取組んでいきたい。</p>	<p>地域の人の意見や情報を大切に受け止め、入居者さんにとって何が一番いいのかを話し合い、毎日のケアに役立てたいと思う。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の件で市の担当と連絡を取り合っている。</p>	<p>介護保険の関係上重要な機関であり、積極的に連携を取って、入居者本人はもちろん、ご家族も支援していきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対応が必要な入居者が居る場合は勉強し、支援するが現在までそのような機会はない。</p>	<p>いつでも対応できるように、職員全員が知識を身につける必要はあると感じている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会などに積極的に参加し、虐待に関することを学びそこで知り得た内容は施設の職員会議などで発表するなどの機会をつくっている。</p>	<p>勉強会、講演などはこれからも積極的に聴きに行きたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に、利用料金、体調悪化時の医療体制などについては長い時間をとり家族の不安な点、疑問点など納得のいくまで説明している。退去時についても、預かり金他、私物の引渡しなども書面にて明確にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	上手く発語できない入居者に対しては、五感を働かせ少ない言葉から意思を汲み取るよう努力している。不満の声などが聞かれた場合は、ユニット全体の問題として捉え、早急にミーティングをし、ケアに問題は無かったか、どうしたら不満が解消できるか話し合っている。		入居者からの不満、苦情については早急に話し合い、解決策を見つける努力はこれからも続ける。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月一度『シャイニングニュース』を発行し、写真やイラストを使い日々の生活の様子をご家族にお知らせしている。また個々に、写真付きでひと月の様子、受診の結果報告などさまざまなことを書き綴って送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には『シャイニングニュース』で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心かけている。また、来訪時にも家族と職員が話し易いよう態度、言葉づかいなどに注意している。		今年は家族会が発足したのでご家族同士で話し合える機会に、率直な意見や苦情が聞ける事を期待している。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニットの中での話し合いで要望や意見を出している。しかし、運営に関しては職員はいいづらいことが多い。		ユニット会議で提案された意見を運営者に伝え、改善できるところは改善し少しでも質の向上につなげたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	余裕のある柔軟な体制とは言えないが、入居者のケアに支障をきたさないようやりくりしている。		管理者に現場の状況を良く理解してもらい、余裕のあるシフトが組めるよう人員の確保をお願いしたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員異動の際は、時期と引継ぎなど出来る限りの努力をし、今まで築いてきたご家族との信頼関係が壊れないよう配慮している。		顔なじみの職員でのケアを心がけ、異動の際は最小限で済むよう話し合いたい。働きやすい職場環境を作り、離職者が無くなるよう工夫する必要性を感じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設外で行われる研修には、業務に支障が無い限り、できるだけ多く参加するようにしている。</p> <p>研修で得たことは毎月の職員会議の席で発表している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者同士の『グループホーム研究会』に所属し、そこでの勉強会に参加し、事例をあげてディスカッションするなど、サービスの質の向上の努力をしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>各ユニットのリーダーと話し合い人間関係の把握に努めている。</p>	<p>親睦会だけでなく、職員個々の話しに耳を傾け、今後検討していきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者は昼食、夕食を入居者、職員と一緒に食べ普段の勤務状況の把握に努めている。</p>	<p>ここでずっと働き続けたいと思える、魅力ある職場作りを検討している。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居希望者の都合の良い時間に、また希望の場所(病院、家庭など)に出向き、本人のテンポに合わせて十分に話し合い、不安なところは解消、希望は受け入れる努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族のニーズを良く見極め何が必要なサービスか、充分話し合っている。</p> <p>不安材料は何か、困っていることは何かなど、またそれまでの生活習慣などの把握に努めている。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族の気持ちを大切に、その時の状況も考え、その希望がベストなのか、主治医、ケアマネージャーに相談している。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入所を決める際、希望の時間希望の場所に出向いて話し合ったり、いつでも都合の良い時間に施設を見学に来てもらうなどして、入所前に本人の納得が得られるよう努力している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>入居者の昔話や、辛かったときの話を一緒に聴いて、笑ったり感心したり、学んだりしながら支えあっている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>病院の定期受診後に家族へ報告、又、ご家族の面会時は最近の本人の様子を細かく伝えることにより、職員と家族間の協力関係が深まっているように思う。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご家族と本人状況をよく見ながら通院同行をお願いしたり、施設内での行事参加を呼びかけるなど、家族との良い関係が続くよう努めている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。</p>	<p>ずっと昔から行きつけの床屋さんに継続して行ったり、居室でのご先祖様の供養など、今までの習慣を大切にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常に声かけし、個別に話を聞いたり相談にのって入居者同士の関係を把握し、介護員が調整役になっている。また、得た情報は介護員全員で共有できるようにしている。食事やおやつ時間は介護員が同席し、会話の時間を多く持っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所した入居者にも、イベントの案内状を出したりして継続した付き合いを心がけている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	上手く発語ができない入居者には、たくさん声かけし顔の表情から意思を汲み取るよう努力をしている。推測した内容はご家族にも話し、お互いに協力し一番良い方法と思える支援をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族の面会時、昔の暮らし方、好きなもの、嫌いなものなど情報を得る努力をしている。 お茶やコーヒーを一緒に飲みながら本人とゆっくり話しをして暮らしぶりを聴いている。		時間の許す限り、本人のテンポに合わせてそれぞれの話し相手になりたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の行動や生活リズムを把握する努力をしている。その中から、残存機能は継続して大切に、忘れてしまったことは支援し、少しでも思い出してもらえるよう、ヒント的な介助を試みたりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に一回程度、モニタリングをして介護計画の見直しを検討している。 ご家族の面会時、要望などにも良く耳を傾け介護計画に反映させるようにしている。		ご家族の希望を計画に取り入れたいが、非協力的な家族が居ることも事実であり、今後の課題です。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間内であっても、本人の状況に変化が見られたときはカンファレンスを行い計画の見直しをしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録帳に、その日の様子や発した言葉などを記している。食事量や排泄チェックもしている。これらの情報の記録を徹底し、介護計画に活かす様になっている。		それぞれ違う状態の9名分を記録し、内容を正確に理解しケアするため、少しでもわかりやすく見やすい記録にするにはどうしたらよいか検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の心身の状態を考え、通院ではなく往診もお願いしている。勿論、定期受診以外の体調変化などは、臨機応変に受診もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	夏祭りなどイベントのときは、ボランティアの協力を呼びかけている。最寄の派出所には、施設の特性を説明し、万が一のときの協力をお願いしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者の希望と体調に合わせて、訪問理容、美容のサービスを利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域周辺の情報交換をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医の看護師が定期的に様子を見ることで、入居者の状態を把握し、職員もとても相談しやすい関係である。 施設の協力医だけでなく、入所前からのかかりつけ医の治療も続けており、往診などの便宜もはかっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入所前から引き続き、専門医に通っている人が数名おり、受診には家族か職員が同行している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医の看護師が定期的に訪れており、健康管理に支援してくれている。 職員とも顔なじみで気軽に相談できる状況にある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、それまで行ってきた支援内容、嗜好品などを医療機関に提供している。 関係していた職員は、入院後も様子を見に行くなど、少しでも早く回復するよう支援している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約時に、重度化した場合の確認書を作成し、施設側のケアを説明している。 状態に変化が見られたときは、そのつど家族に説明しその後のケアに活かしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	容態が急変したときは、すぐ対応してもらえるよう日頃から医療機関と連携している。 家族と本人の気持ちを第一に考え、意向に添うよう努力している。		誰も避けては通れないことなので、今後もチームワークで当事者だけでなく、他の入居者への影響も考えて慎重に対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅に帰りたいとの本人の強い希望があり退所したが数ヶ月後、入院したとの情報があった。 家族と充分に話し合い、起こりうるリスクについても説明をした。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録や個人情報などは、外部の人間、もしくは他の入居者の目につかないよう、細心の注意をしている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者の希望を聴く耳を持ち、時にはご家族の協力を得、期待に応えられるよう支援している。 飲み物なども、複数の中から好きなものを選んでもらっている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、その中でそれぞれのペースに合わせて自由に過ごしてもらっている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自己決定が可能な入居者は好きな服を選び、自己決定ができない入居者は職員が『どっちにする?』などと、声かけしている。 理容美容は訪問を利用しているが、何名かは希望のお店に出向いている。また、毛染めなども希望があれば職員がすることもある。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニューは職員が作っているが、簡単な下ごしらえ、食器洗いなどは一緒に行っている。 また、回転寿司、ラーメンなど希望者と一緒に外食する機会もついている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>これまでの生活状況を把握し、コーヒー、日本茶、紅茶などその人が飲みたいと思う飲み物も提供している。</p> <p>喫煙者については、コーナーを設け、タバコとライターは職員が管理し、吸いたいときに吸ってもらっている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導するなど、便器での排泄を心がけている。</p>		<p>よりスムーズな排泄のために、十分な水分と適度な運動。食物繊維の摂取に心掛けたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>希望の入浴時間に合わせてお風呂を準備し、職員見守りのもと入浴、また、意思表示をうまくできない入居者については事前に血圧チェックをして、体調管理を充分にした上で、本人の心地よい温度で入浴してもらっている。</p>		<p>もっと楽に入浴してもらうために、各種介護用具の上手な利用に取り組みたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>午後の昼寝、決まった時間の緑茶など、個々の習慣を大切にしている。</p> <p>就寝時間も夜勤者の都合に合わせてことなく、ホールでテレビを観てくつろぐなど、自由に過ごせるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>編み物、読書、また魚屋さんだった人には鮮魚の処理など、それぞれ出来る事、やりたいことをしてもらっている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>希望に応じて、買い物に出かけ、職員と一緒に見て考えて選び、本人に支払いしてもらするなど、社会的生活の支援をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自分が食べたいお菓子、必要な衣類、また読みたい小説や雑誌などの買い物に出かけている。 近くの公園までの散歩などは、外気浴のためにもよく出かけている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	春には満開の桜、初夏は見事なアジサイ、秋は紅葉・・・など季節ごとの外出を楽しみ、時には『外食の日』などを設け、折に触れ社会の中に出かける機会をつくっている。		今後もそれぞれの希望を取り入れ、季節ごとの見学、食事会などは続けて行きたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話したいとの申し出の場合は、深夜、早朝で無い限り希望の時間に本人がかけることができるよう支援している。 知人に年賀状などを書く場合は、職員がアドバイスをし、散歩がてらポストまで出かけている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	知人、ご家族が面会の際は、当事者が一番話しやすいと思える場所(ホールでも居室でも)で、職員が必要以上に介入することなく、ゆっくり過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒などの恐れがある入居者の徘徊には職員が常に付き添い、身体拘束することなく安全に配慮している。		今後も今まで同様、拘束することなく、穏やかな介護を続けていく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の行動範囲を限定せず、自由に、かつ安全に共有スペースや外庭に出入りできるよう介助、見守りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間はホール内で必ず介護員が見守りし、その人の意思に任せて(危険のない範囲で)行動してもらっている。 夜間は、居室入り口や廊下が見渡せる場所で見守り、介助している。また、数時間毎に巡回し、安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物を扱うときには、本人の能力に応じて使用してもらうが、必ず介護員が見守っている。 針仕事も使うときだけ、必要なだけ渡し、終わったら必ず返してもらっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人の状態に合わせて事故を未然に防ぐ工夫をしている。例えば、飲み込みの悪い人は刻み食を提供するなど。ヒヤリハットを記録し、介護員が緊張感を忘れないよう意識付けしている。万が一のときは、事故報告書を作成、家族への報告、説明をし、今後の予防対策を検討している。火災訓練は半年に一度、専門業者の指導のもと訓練している。薬の内服については、本人が完全に飲み込むまで声かけ見守りをしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	119番ファイルを作成し、救急時に対応できるようにしている。		勉強会などを開き、職員全員が応急手当の方法を習得したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	半年に一度、専門業者の指導で、入居者と介護員全員で、消火器の使い方を含めて避難訓練をしている。		今後は毎月の通信紙を、家族だけでなく、町内会にも回覧し、地域の人にも施設内の活動をわかってもらうようにしたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時にこれから起こりうるリスクに対して、家族と十分に話し合っている。 『危ないから……』と止めることより、何でもできる楽しさを充実感の大切さを解ってもらう努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、バイタルチェックを行い体調の管理をしている。変化がみられた場合は、早期に主治医に相談するなど、悪化防止に努めている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋はファイルし、職員全員が見ることができるようにしている。処方に変更があれば、必ず申し送りをして全員が把握できるようにしている。服薬時は手渡しし、服用の確認を忘れずにしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の排泄チェックをして、十分な水分と散歩などの適度な運動を行っている。食物繊維を充分摂取できるようなメニュー作りに心掛けている。		冬季間は外に出る機会も少なくなるので、ラジオ体操や、関係誌に掲載されている健康体操などを取り入れたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、義歯をはずして洗浄、うがいなど口腔内のケアをしている。また、専門家による口腔ケア研修も行い、職員の知識の向上も図っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量と水分量がひと目でわかるようファイルしている。また、すりおろし、刻み食などそれぞれの状態に合わせて調理している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防のため、家族の同意をもらい、毎年接種を行っている。ノロウイルスのためなどの食中毒に関しては、ペーパータオルを使用したり、食事直前に手の消毒をするなど、予防に努めている。また、職員の知識向上のため、講習会などにも、積極的に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は使い終わったら除菌をし、清潔を心がけている。 食材はできるだけ旬のものを使い、冷蔵庫を活用し、鮮度を落とさない努力をしている。 冷蔵庫、冷凍庫の残り物のチェックを頻繁にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏の間はベンチやプランターを置いて花を植え季節感を出している。 狭いが畑を作り、トマト、ピーマン、じゃがいもなどを植え入居者の楽しみと生活のメリハリにもなっている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの壁に季節感のある飾りつけをしたり、家庭でもそうであるようにカレンダーを貼ったりして居心地のよい空間づくりをしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール内の2ヶ所にソファを配置、好きな時間に好きな者同士でくつろげるようにしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し、今まで使用していた家具や、座り慣れたソファを置いて、慣れ親しんだ部屋になるよう努めている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室に温度計を設置している。また、時々窓を開け空気の入替えをしてよどみがないようにしている。 入居者さんと一緒にクローゼットの整理をするなど、匂いの原因のチェックもしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

9名仲良く、笑いが聞こえない日はないよう、楽しく穏やかに暮らせるように支援したい。
現在はそれぞれ自由に時間を過ごし、ほぼ満足した生活を送っていると自負している。